

マンモグラフィ検査について

～乳がん早期発見の町づくり～

診療放射線技師 田村 登志雄

【マンモグラフィ精度管理中央委員会認定取得技師】



日本人の乳がん患者は年々増加傾向にあり、女性のがんでは胃がんを抜いて第1位となりました。早期に発見し治療するためにも、マンモグラフィ検査を受けることが大切です。



マンモグラフィ検査機です

Q:『乳がん』が増えてきているって聞
くのですか？

A:生涯を通して乳がんを発症する
人数は、アメリカ合衆国で8人
に1人、日本では20人に1人が乳
がんを発症しています。

マンモグラフィ先進国のアメ
リカ合衆国では実に72・5%のマ
ンモグラフィ検診受診率である
のに対して日本ではわずか5・6
%程度の受診率であり、『視触
診』『マンモグラフィ検診』『エ
コー(超音波)検診』を含めた乳
がん検診(40歳以上調査)でも20
%程度です。(岩美町の受診率(40
歳以上調査)約39%・福祉保健課
調べ)

Q:『マンモグラフィ』って何です
か？

A:簡単にいうと放射線を使って
乳房内部組織を写真に写しこむ
検査です。

乳房は乳腺組織と脂肪組織か
ら作られており、この中に異常が
ないかを調べる検査です。

Q:『マンモグラフィ』っていつ頃
から始めるのですか？

A:自治体によって異なりますが、
岩美町では年度内に30歳を迎え
られる女性からを対象に検診の
案内が届きます。

Q:どれくらいの間隔で検査を受
けるのですか？

A:だいたい2年に一度といわれ
ており、町の検診案内も2年間隔
で届けられます。

(※原則、岩美町では年度内に偶数
年齢になる30才以上の方が受診
資格者となります。詳しくは福祉
保健課まで)ただし、10代20代、
さらには男性の方でも乳がんにか
かる事がありますので、自己検
診して気になったら医療機関に
ご相談ください。

Q:乳がんが出来やすい年代とか
あるのですか？

A:30代から増加をはじめ、40代後
半から50代前半までをピークと
して発症し徐々に減少していく
傾向にあります。

Q:『マンモグラフィ』って実際に
はどんな事をするの？

A:始めに担当技師による検査の
内容と流れを説明します。

写真撮影は片方ずつ乳房を
引っ張り、圧迫版という板で徐々
に乳房を平らにしていきます。こ
れにより、少ない放射線の量で乳
房の中をより鮮明に見ることが
できます。もちろん大きな形は関
係ありません。

Q:痛いのか？怖いのか？

A:痛みには個人差がありますの
で、ほんのちよつと潰しても痛い
という方や、どんなに潰しても痛
くないという方がおられます。全
体的には痛がられる方が多いで
すが、最大に潰している時間は5
秒ほどですので、鮮明な写真を撮
るために頑張っていたただいてい
ます。

Q:恥ずかしいのですが…？

A:乳がんの早期発見における10
年生存率は80%近くですが、進行
すると50%を下回ります。恥ずか
しいというリスクより、早期発見
という利点を優先していただい
たらと思います。